

# 葛尾村における避難と 復興に向けた取り組み

葛尾村森林公園  
「もりもりランド」

葛尾村副村長  
金谷喜一

# 避難の経緯 1

## 国県対応・原子力発電所状況

3月11日

- 14:46 三陸沖を震源とするM9.0の巨大地震発生
- 福島第一（震度6強）、福島第二、女川、東海第二原子力発電所が緊急自動停止
- 14:50 首相官邸に対策室を設置
- 15:37 第一原発大津波に襲われ15.5mまで達する
- 15:42 第一原発1～4号機電源喪失 非常用発電機使用不能

## 葛尾村対応・周辺町村状況

- 村役場の地震振動計は5強を示す
- 15:00 葛尾村災害対策本部設置
- 15:23 消防団各分団幹部へ出動要請
- 16:00 消防団へ被災調査依頼（屋根瓦の落下等47棟、人的被害無しの報告受ける）
- 17:00 一人暮らし高齢者・深夜帰宅者のための避難所開設

葛尾村、浪江町津島地区への送電ルート(水力発電)



古道川発電所



浪江町双葉村葛尾川

1 : 30,000

# 避難の経緯 2

## 国県対応・原子力発電所状況

- 21:23 第一原発から半径3キロ圏内に避難指示 10キロ圏内に屋内待避指示が出る

**3月12日**

- 5:44 1号機中央制御室で放射線量上昇 半径10キロ圏内に避難指示出る
- 15:36 第1原発1号機で水素爆発
- 第1原発敷地境界で放射線量500マイクロシーベルトを超える

## 葛尾村対応・周辺町村状況

- 福島県防災無線が機能なくなり、県から情報が入らなくなる
- 第一・第二原発周辺町で避難開始
- NTT回線、携帯電話回線が通信途絶する(NTT磐城富岡局舎自家発電燃料切れ)

# 避難の経緯 3

国県対応・原子力発電所状況	葛尾村対応・周辺町村状況
<ul style="list-style-type: none"><li>• 17:39 第2原発半径10キロ圏内に避難指示出る</li><li>• 18:25 第1原発半径20キロ圏内に避難指示出る</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 16:30 葛尾村議会全員協議会開催（地震被害状況の報告及び原発事故対応について、最悪のシナリオを想定し避難指示、予算編成含め村長の判断で行動することの了承を得る）</li><li>• 政府の発表をテレビで見て地図上で20キロ圏内を確認し住民(27世帯96名)に避難指示する</li><li>• 20:30 「健康増進センター」に村民40名避難</li></ul>

# 避難の経緯 4

## 国県対応・原子力発電所状況

3月13日

- 4:15 3号機の核燃料棒の露出始まる
- 15:27 3号機について建屋爆発の可能性について、枝野官房長官発言

## 葛尾村対応・周辺町村状況

- 原発が不安定なため、避難を想定し準備始める(高齢者などの要援護者対策点検確認等)住民の一部が自主避難を開始していることがわかる
- 15:00 静岡県のモニタリングポストが到着設置され役場周辺の線量が計れるようになる(計測値0.038マイクロシーベルト)
- 職員に対しては、緊急避難する場合の避難先について、家族で話し合っておくよう文書で通知する

## 村長から職員への通知（3月13日文書通知） 抜粋

### 職員の対応

- ・ 避難勧告が出た場合、住民避難を優先させ、避難マニュアル（別添 国民保護法による避難マニュアルを村外避難を想定した内容に変更）により避難を実施します。
- ・ このことから、家族の避難については、事前に家族の中で十分に協議し、避難先を確認しておいて下さい。避難のあてのない方は、村が指定する避難所に避難することを家族の中で確認しておいて下さい。
- ・ 職員は、住民の避難が確認されてから避難しますので家族と一緒に避難をしたい職員は、自家用車で家族を役場に待機させて、最終避難をすることになりますのでよろしくお願いします。（避難できる準備を整えてください。）
- ・ 委託職員については、一般住民として行動することとして、避難勧告がでたら速やかに避難するよう所属長から今日中に伝達して下さい。

# 避難の経緯 5

## 国県対応・原子力発電所状況

3月14日

- 11:01 3号機水素爆発
- 県災害対策本部へ、「避難する住民の受け入れ可能な市町村を紹介してほしい」むね問い合わせたが、県は、「避難指示は20キロ圏外には出ていない」として、取り合わなかった。その後も問い合わせたが連絡無し

## 葛尾村対応・周辺町村状況

- 原発事故の状況は厳しさを増しており、職員は、避難は時間の問題と考え、役割分担表などを作成、避難に向けての準備を進めていた
- 駐在所が役場に飛び込んできて「3号機が爆発した屋内待避をさせてください」と叫ぶ。直ちに防災無線、IP告知放送で村内に知らせる(サイレン吹鳴)
- 役場のモニタリングポスト値は、変わらず、屋内待避を解除
- その後1時間おきに放射線の値を村内に知らせる



# 避難の経緯 6

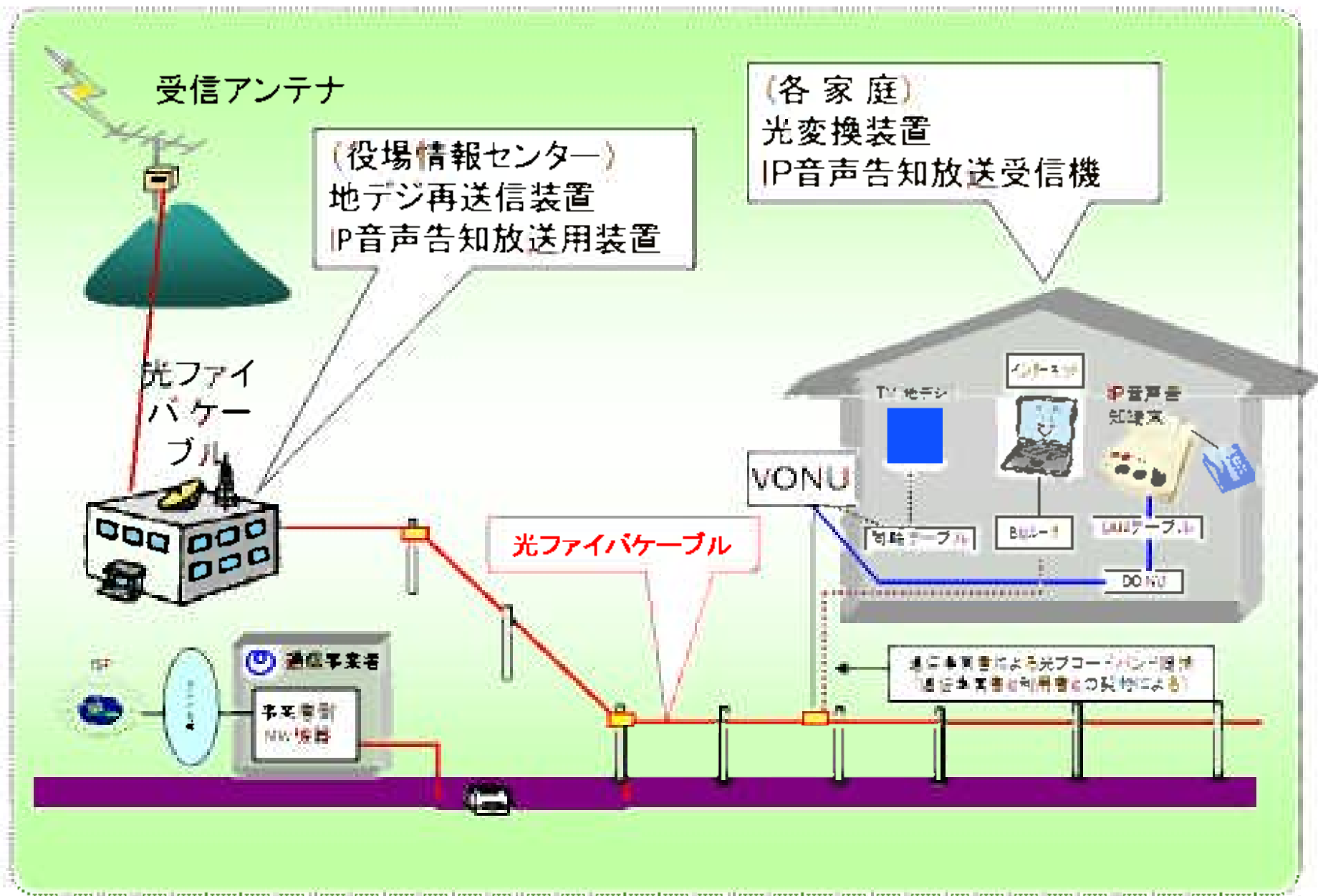
## 国県対応・原子力発電所状況

- 18:22 2号機が空だき状態になる
- 19:30 県から衛星携帯電話が届けられ、外部との連絡が確実に行えるようになる
- オフサイトセンターが通信回線の途絶等で十分な機能が発揮できないことと、エアフェルターが設置されてないため要員の健康への影響が懸念されたことから15日をもって県庁へ移転することとなった(国会事故調 報告書)

## 葛尾村対応・周辺町村状況

- 18:30 原発の状況が厳しさを増していることから、対応策を協議、避難計画の情報収集を行なうため、村長に川内村遠藤雄幸村長と無線電話で情報交換をしてもらう、川内村では、ただちに避難することを考えていないことがわかる
- 村長は避難の意志はまだ固まっておらず、国・県からの指示を待った。
- 21:05 オフサイトセンターから要員が待避したとの情報が入る(村としては危険で逃げたと判断)
- 21:15 村長が避難を決断

# 葛尾村情報通信基盤整備事業の全体イメージ



# 避難の経緯 7

## 国県対応・原子力発電所状況

- あづま総合運動公園体育館が南相馬市等からの自主避難者等のため開放されていた

**3月15日**

- 6:00頃 2号機放射線大量放出 4号機水素爆発

## 葛尾村対応・周辺町村状況

- 21:15 直ちに、22:15分役場前出発 福島市のあづま総合運動公園に避難の勧告を防災無線、IP告知放送を使い放送する(サイレン吹鳴)
- 23:50 避難者全員612名(葛尾村に避難していた他市町村民も含む)あづま総合運動公園に到着 体育館に約2,000名が避難
- 100km以遠の避難を想定し本格的な避難先を探し始め、会津若松市災害対策本部から会津坂下町を紹介され避難を決定 住民に説明する

# 避難の経緯 8

国県対応・原子力発電所状況	葛尾村対応・周辺町村状況
<p data-bbox="280 391 1086 590">• 11:00 福島第一原発の20～30キロ県内の屋内待避指示出る</p> <p data-bbox="280 869 481 925">4月5日</p> <p data-bbox="280 1204 526 1260">6月26日</p>	<ul data-bbox="1153 391 1960 1428" style="list-style-type: none"><li>• 13:30 葛尾村バス5台、福島交通貸切バス1台で会津坂下町へ避難開始</li><li>• 17:00 会津坂下町に到着 川西公民館に270名 会津少年自然の家に86名 あづま運動公園に残ったもの83名(葛尾村に通い家畜の世話等のため..)</li><li>• 会津坂下町、柳津町他のホテル旅館へ住民2次避難開始</li><li>• 三春町仮設住宅へ入居始まる(三春ダム周辺10団地)</li></ul>

# 避難の経緯 9

国県対応・原子力発電所状況	葛尾村対応・周辺町村状況
<ul style="list-style-type: none"><li>11:00 福島第一原発の20～30キロ県内の屋内待避指示出る</li></ul> <p>4月 5日</p> <p>4月21日</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>13:30 葛尾村バス5台、福島交通貸切バス1台で会津坂下町へ避難開始</li><li>17:00 会津坂下町に到着 川西公民館に270名 会津少年自然の家に86名 あづま運動公園に残ったもの83名(葛尾村に通い家畜の世話等のため..)</li><li>会津坂下町、柳津町他のホテル旅館へ住民2次避難開始</li><li>旧法務局会津坂下出張所に葛尾村会津坂下出張所開設</li></ul>

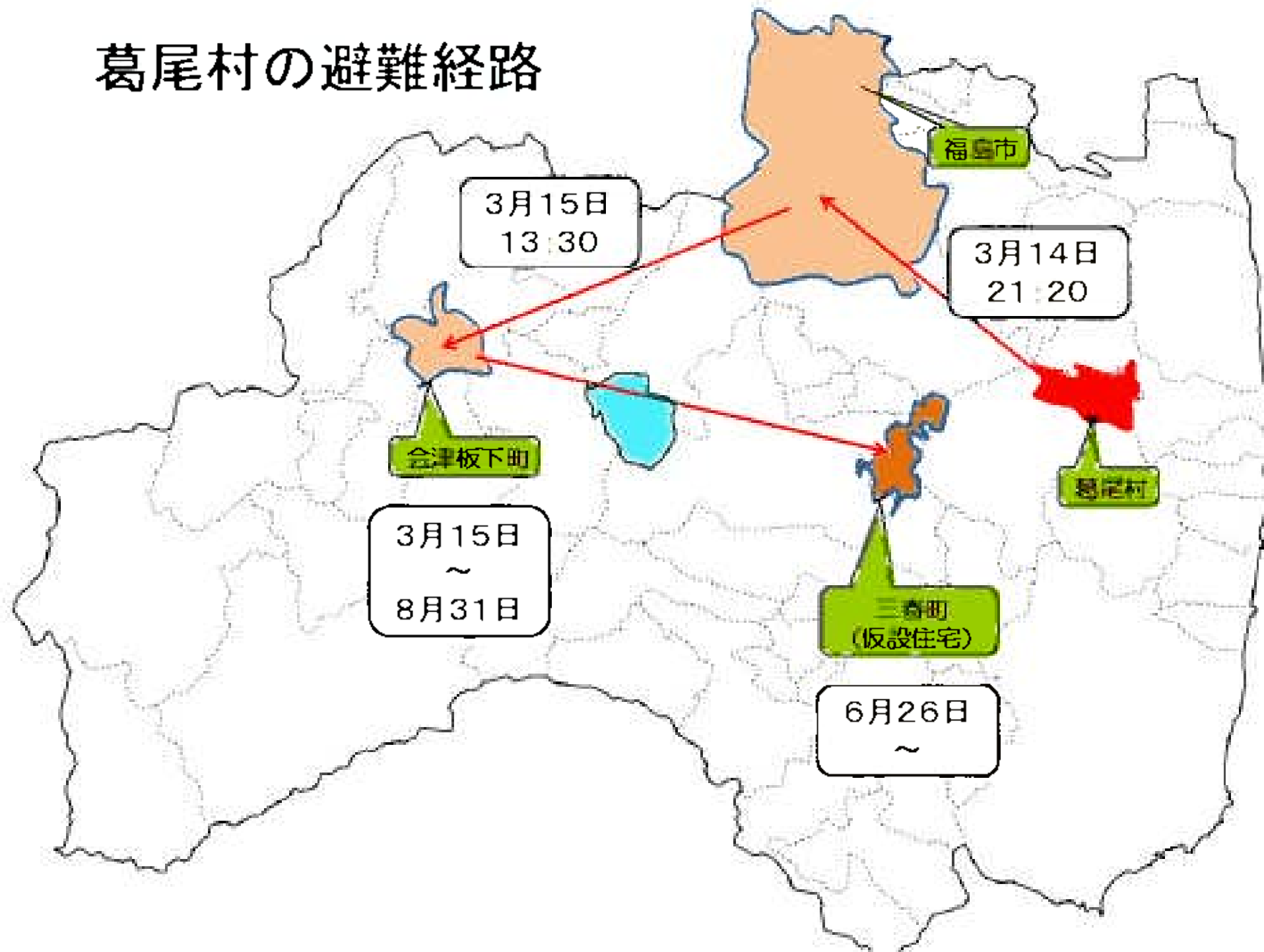
# 避難の経緯 10

国県対応・原子力発電所状況	葛尾村対応・周辺町村状況
<p>6月21日</p> <p>6月26日</p> <p>8月1日</p> <p>8月10日</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 葛尾村特別警戒隊村内の防犯パトロール開始(村民52名委嘱5班 8時間勤務 24時間パトロール)</li><li>• 三春町仮設住宅へ入居始まる(三春ダム周辺10団地)</li><li>• 葛尾村三春出張所開設(6月15日から貝山運動場管理棟で役場事務所開設中 条例により出張所開設)</li><li>• 葛尾村会津坂下出張所閉鎖</li></ul>

# 避難の経緯 11

国県対応・原子力発電所状況	葛尾村対応・周辺町村状況												
<p>8月31日</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>8月31日現在の避難状況</li><table><tr><td>避難者数</td><td>1,524名</td></tr><tr><td>  県外</td><td>133名</td></tr><tr><td>  県内</td><td>1,393名</td></tr><tr><td>    自主避難</td><td>34名</td></tr><tr><td>    借り上げ住宅</td><td>446名</td></tr><tr><td>    仮設住宅</td><td>913名</td></tr></table><p>避難所、ホテル等にいる者はゼロとなる</p></ul>	避難者数	1,524名	県外	133名	県内	1,393名	自主避難	34名	借り上げ住宅	446名	仮設住宅	913名
避難者数	1,524名												
県外	133名												
県内	1,393名												
自主避難	34名												
借り上げ住宅	446名												
仮設住宅	913名												

# 葛尾村の避難経路





# 復興への取組 1

## 葛尾村復興計画策定経緯

- H23. 12. 07 平成23年度第1回復興委員会  
(委員の委嘱、全体会)
- H23. 12. 19 平成23年度第2回復興委員会  
(全体会、3分科会(生活支援、人づくり・村づくり、除染・産業))
- H24. 1. 12 平成23年度第3回復興委員会  
(復興ビジョン素案の検討、3分科会、全体会、検討調査会設置)
- H24. 1. 14 平成23年度第1回行政懇談会  
(葛尾村復興ビジョンの素案について 他)

## 復興への取組 2

### 葛尾村復興計画策定経緯

- H25. 1. 15～25日 復興ビジョン(案)パブリックコメント実施
- H24. 2. 13 平成23年度第4回復興委員会  
(アンケート結果、検討調査会報告、復興ビジョン検討、復興計画(第一次)たたき台の検討)
- H24. 2. 15 復興ビジョン答申
- H24. 3. 19 平成23年度第5回復興委員会  
(検討調査会報告、3分科会審議、全体会)
- H24. 5. 17 平成24年度第1回復興委員会  
(検討調査会報告、復興計画(第一次)素案審議)

# 復興への取組 3

## 葛尾村復興計画策定経緯

- H25. 6. 1～15日 復興計画(第一次)素案パブリックコメント実施
- H24. 8. 5 国による説明会(除染、区域見直し、賠償について)
- H24. 8. 17～9. 3 平成24年住民意向調査
- H24. 8. 25～8. 31 平成24年度第1回住民懇談会(区域見直しについて)
- H24. 11. 24 平成24年第2回復興委員会(検討調査会報告、復興計画(第一次)審議)  
葛尾村復興計画(第一次)答申

# 葛尾村復興計画

(第1次 平成24年12月)

村民一人ひとりの生活再建と  
ふるさと「かつらお」の繁栄をめざして



## 計画期間

計画期間は、平成24年度から平成33年度までの概ね10年とし、緊急度等に応じて復興目標時期を「支援・復旧期」、「復興期」に分けて、復興に向けた取り組みを進めます。

また、原発事故の収束が依然として見えないことから、原子力災害の情勢を見据え見直しを行います。

- 短期計画：平成24年度～平成25年度（2年間）  
本格的な除染事業や災害復旧、生活基盤の復旧期間
- 中期計画：平成24年度～平成28年度（5年間）  
本格的な復興を遂げることを目指す期間
- 長期計画：平成24年度～平成33年度（10年間）  
葛尾村が発展し、新しい葛尾村をつくり上げる

**※復興期の事業であっても可能な準備はすぐに取り掛かります。**

# 葛尾村復興計画の方針と施策

## 基本方針

- ◆ 村民の将来にわたっての安全・安心を最優先する
- ◆ 避難している方への支援を続け、村民全員の帰還をめざす
- ◆ 村のさらなる発展をめざし、村民一体となった復興をめざす

## 主要施策

### 「新しい葛尾村」の創造

1 避難生活の支援

葛尾村の復旧

- 2 除染等放射線対策
- 3 インフラ整備
- 4 災害対策
- 5 子育てやコミュニティ強化

葛尾村の復興・発展

- 6 人づくり・文化
- 7 インフラ整備強化、産業育成

支援・復旧期

復興期

# 1. 避難生活の支援（一部実施中）



## 村民全員での帰還

### 主要事業

- 居住環境の改善  
(災害公営住宅の村内外への整備など)
  - コミュニティの維持と生きがいづくりの推進
  - 細やかな情報発信
  - 完全な損害賠償の実施要求
  - 教育機会の確保
  - 村民の健康管理
  - 村内の安全の確保
- など

## 2. 葛尾村の復旧（除染等放射線対策）

国による除染

村による除染

村民による  
放射線管理

放射能問題の克服

村民の将来にわたっての安全・安心

### 主要事業

- 安全な線量の早期設定
- 優先順位に基づいた集中的な除染
- 農地や森林の除染と補償
- 地元雇用の確保
- 放射線に対する正しい知識の習得
- 帰還後の放射線管理

など



### 3. 葛尾村の復旧（インフラ整備）

村民が安心して生活できる村

産業インフラの復旧

生活基盤・

治安体制の整備

福祉の確保

教育・医療・

#### 主要事業

- 村内の道路の整備拡張
- 飲み水の安全確保
- ごみ処理などの生活基盤の復旧
- 学校・福祉施設の除染
- 防犯体制の強化
- 警戒隊等による治安の維持

など

## 4.葛尾村の復旧（災害対策）



### 主要事業

- 防災計画の見直し
  - 交通基盤・情報通信手段の強化
  - 備蓄や通信機能を備えた防災拠点の整備
  - 医療・福祉体制の充実
  - 自主防災組織体制の強化
  - 災害時の地域間連携強化
- など

## 5. 葛尾村の復旧 (子育てや「コミュニティ強化」)



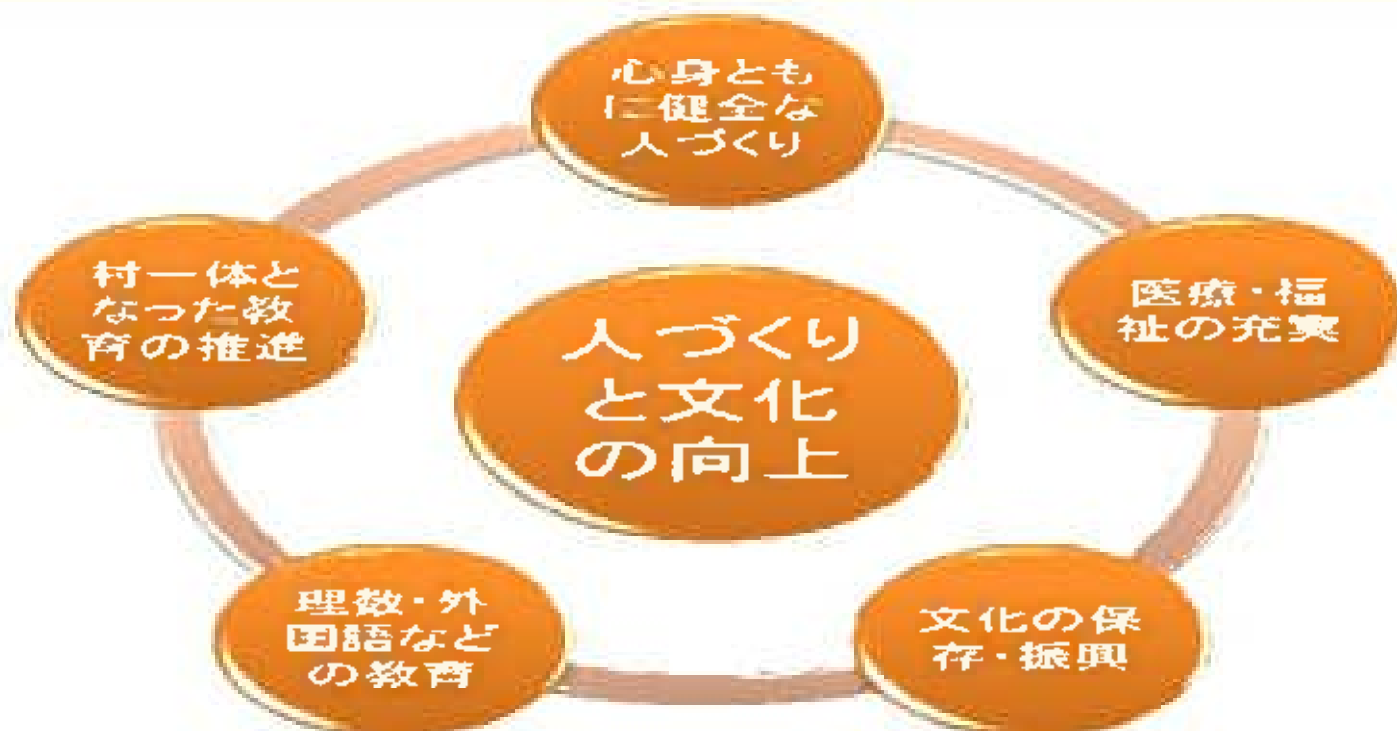
### 主要事業

- 教育・福祉施設の整備
- 教育などへの経済的支援
- 保育サービスの充実
- 高齢者が安心して暮らせる村づくり
- 要援護者が自立できる村づくり
- 村の歴史・文化の再発見事業

など

## 6. 葛尾村の復興・発展

(人づくり・文化)



### 主要事業

- 将来の村を担う創造性と自主性に富んだ人づくり
- 少人数教育による学力の向上
- 健康教育・食育の推進
- 地域の伝統文化や自然・歴史的建造物の保存
- スポーツ・レクリエーションの振興
- 双葉地域の医療・福祉の核となる施設整備 など

## 7. 葛尾村の復興・発展

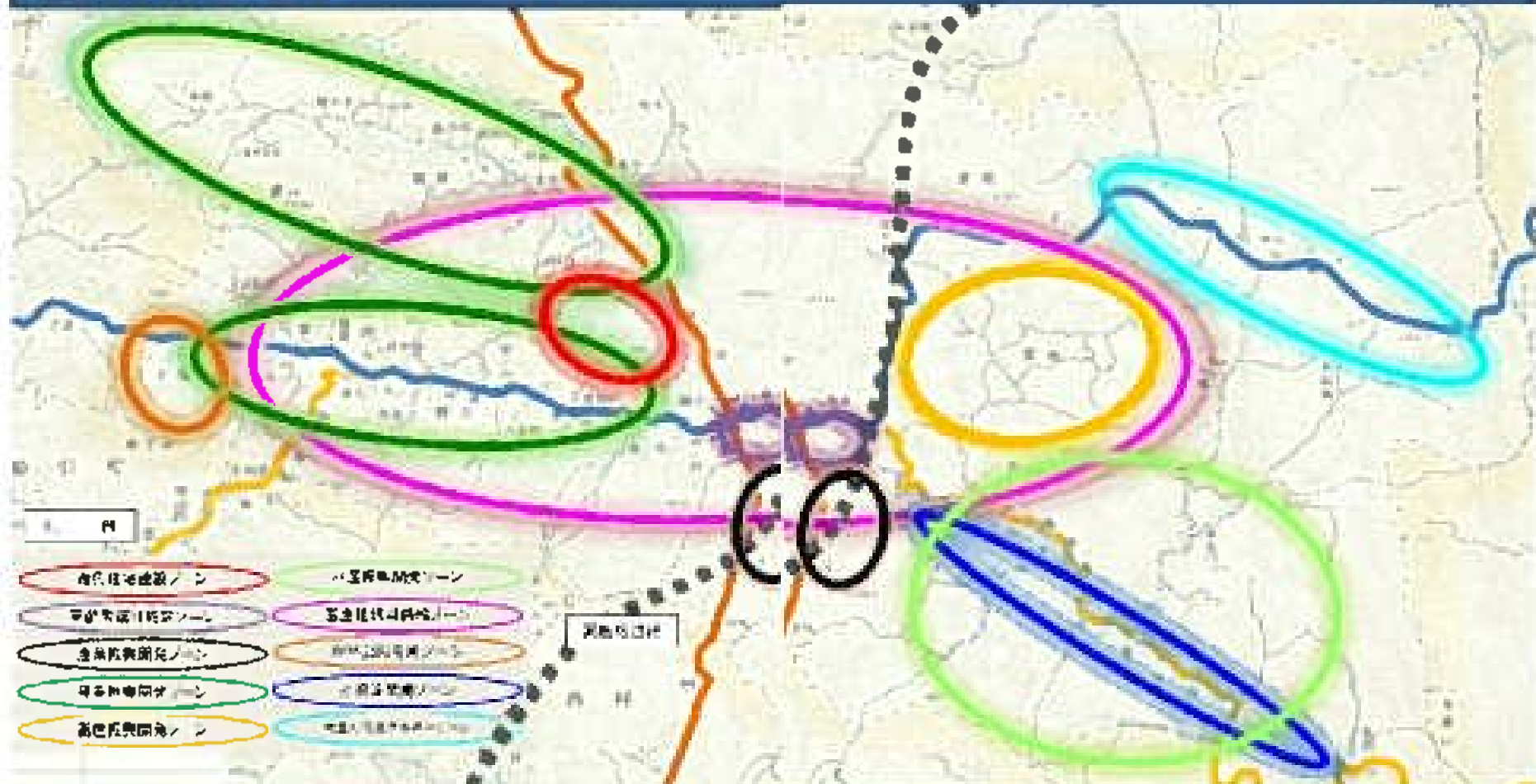
(インフラ整備強化、産業育成)



### 主要事業

- 農林業者への緊急支援
- 風評被害の払拭
- 畜産の復活と多様な農産物の生産
- 林業の支援
- 農林業の人材育成
- 葛尾ブランドの推進
- 企業等への支援
- 事業者の人材育成
- 再生可能エネルギー産業の推進
- 復興の基盤となる道路等の整備

など



【岩尾村復興イメージ図（ゾーニング計画）説明】

- 1 村内各方向の山林を切り取り、各種ゾーンの造成・基礎整備を区画とともに、そこから出た土砂を廃止場への輸送に利用するなど、防災事業と一体的に取り組みます。
- 2 主要幹線の整備。特に岩尾くま川（小野川）と常盤内私道（旧国道10）の沿線沿道沿路による道路と、老朽化道路沿道沿路の抜本的な道路整備を行います。

① 計画に対しては、住民への充分な説明のうえと理解を求め、行政区単位で実行委員会のような組織を立ち上げ、住民一人ひとりが計画に関わり貢献を促す取り組みを行います。

② この図はあくまでも村の将来を想像したたたき台であり、今後、皆さんと一緒に考え、作成・見直しをしていきます。なお、各ゾーンの詳細は添付ページをご覧ください。

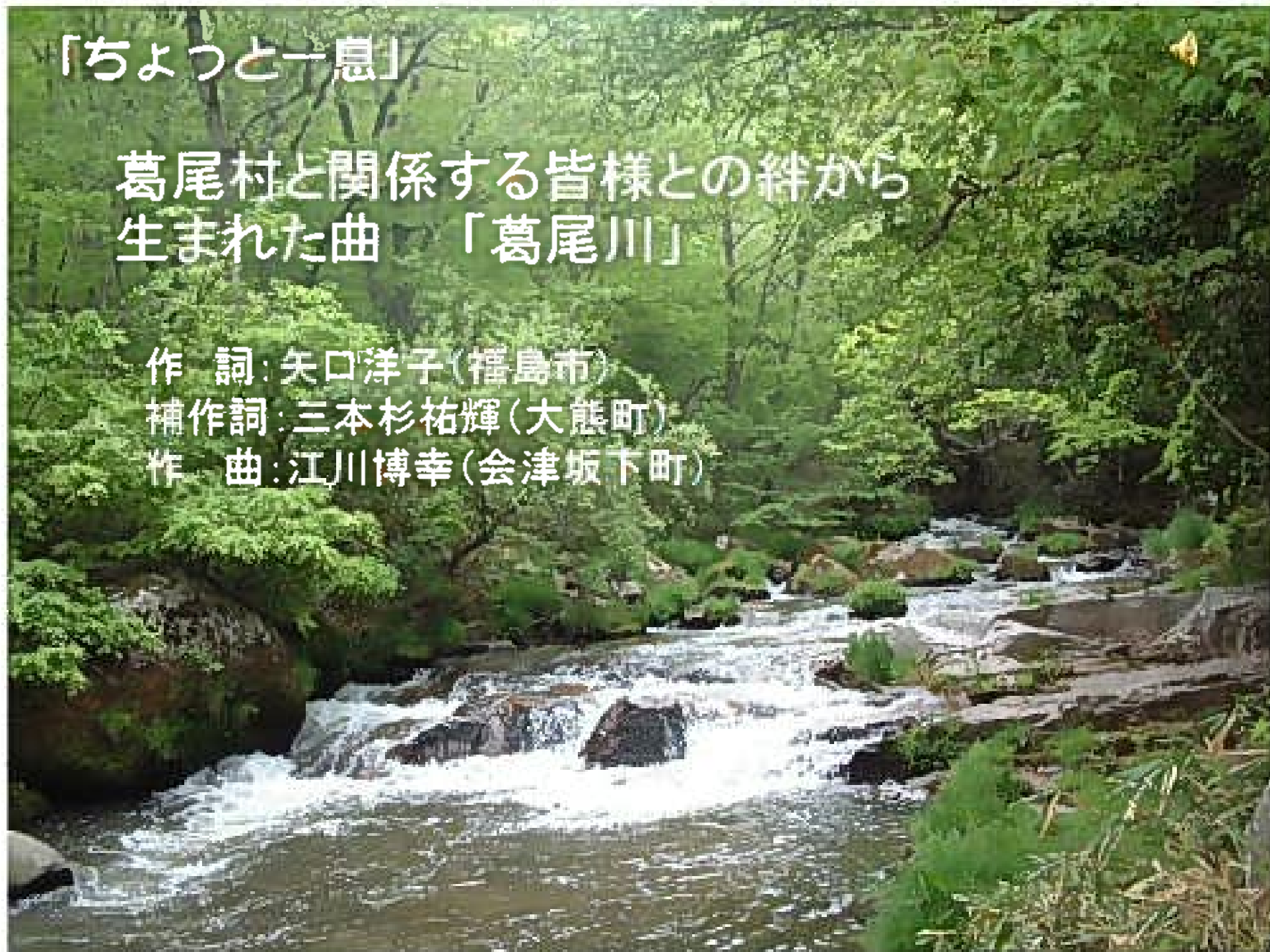
「ちょっと一息」

葛尾村と関係する皆様との絆から  
生まれた曲 「葛尾川」

作詞：矢口洋子(福島市)

補作詞：三本杉祐輝(大熊町)

作曲：江川博幸(会津坂下町)











A photograph of two horses in a grassy field. On the left is a dark brown horse wearing a blue halter. On the right is a chestnut horse wearing a pink halter and white wraps on its lower legs. In the background, there is a wooden fence and a hillside.

おわり

ご静聴ありがとうございました